

建設経済常任委員会所管事務調査

研修報告

委員長 北原 芳史

平成21年7月16日～17日に建設経済常任委員5人、本庁及び総合支所の経済課、建設課課長4人で視察研修を行いました。

65m、一日の通行量6,000台で大変気品のある橋で長崎の観光スポットとなっている。

2日目は、おおむら夢ファーム「シユシユ」(大村市)を視察。説明では農業者の高齢化や減少による耕作放棄地が増える中、地域農業の活性化を図るため、農業交流拠点を建し、地域農産物の生産、製造、加工、販売のいわゆる「六次産業」の確立を目指すと共に、都市住民との交流を図り農業振興や後継者の育成を目的に専業農家8人で運営。従業員はパートを含め70人で常勤は社長、専務2人。大村湾を望む丘にあり敷地面積15,000㎡で農産物直売アイス工房、パン工房、洋菓子工房、レストランを設備し、パン、ウインナー、シュークリーム、ピザ等の体験教室やいちごやメロンの収穫体験、団塊の世代に向けた農作物の栽培指導や農機具の使い方、ジャ

◎諫早干拓(長崎県諫早市)

潮受堤防 吾妻町から対岸の高来町へ全長7kmの潮受堤防を横断し、堤防内外の海水の状況と排水門の視察を行った。

◎干拓資料館(諫早ゆうゆうランド・干拓の里)では干拓の歴史・道具等を展示してあり鎌倉時代から始まっている干拓の見学として農業法人愛菜ファーム(キャタピラー九州)48haでじゃがいもを中心に栽培、その内6haにはひまわりを植え、種から油を採取している施設が稼働していた。

◎女神大橋(長崎市)長崎港をまたぎ大浜町から新戸町をつなぐ斜張橋で平成17年12月完成。長さ1,289m、幅員31.1m、海面からの高さ

校生や10代の母が2月に出産し、養育をどうしたらいいか悩んでいることなどの相談に応じています。核家族社会のなかで悩みを解決できるように同じ若い母親同士で学びあえる事業を進めています。

介護保険事業や国保事業は本町と基本的には同じ事業が行われています。

介護保険料基準額は月額4,850円で昨年より50円下げたそうですが、佐賀県内では一番高い、とのこと。

2日間の研修では先進部分で学ぶところが多々あり、住民福祉の向上のため本町で取り入れられるものはぜひ取り入れたいと強く感じたところです。

以上、厚生常任委員会所管事務調査報告を終わります。



長崎県壱岐市役所での視察研修

寿楽園の立替建設を23年度に計画し、今年度は建設検討委員会を医師、民生委員、社協事務局、特養事務長、ケアマネージャー、家族会、学識経験者など10人で立ち上げユニット、個室化など利用者の負担も考え、民意を反映するようにしたいとのこと。財源は基金と共に、合併特例債か過疎債を利用したいとのことでした。

ちなみに介護保険料基準額は月額4,300円です。壱岐市は離島ですが、離島としての特別な交付金は国から来ていないとのこと。

寿楽園の施設内の見学を楽しみにしていましたが、和水土町保育園の新型インフルエンザ発生の情報から施設内への出入りを禁止されてしまい施設内の状況は見る事ができませんでした。新型インフルエンザの影響はこういうところにも出るのかと改めて感じました。

4日の佐賀県伊万里市の人口は約57,000人です。高齢者福祉、子育て支援の取り組み、健康づくり事業、介護保険事業、国保事業など各担当者か

ら幅広く説明を受けました。福祉サービス事業については高齢者の相談窓口を設け、介護、福祉、健康、医療の相談に応じています。在宅で一人暮らし、高齢世帯等を支援するサービス、配食サービスや愛の一声運動として、見守りや日々の安否確認が必要な65歳以上の高齢者に対し、訪問連絡員が週1回訪問等を行っています。市内に4箇所ある老人福祉施設は高齢者の交流の場、憩いの場として利用料は1日20円という安さで気軽に利用できるような施設があります。ふれあい通所サービスやリハビリ教室、高齢者運動教室、高齢者の生きがい作り教室、在宅要介護者歯科保健事業など高齢者が安心して健康で長生きできるような事業がきめ細かく行われています。本町と取り組みは基本的に同じでしたが、市内は広く人口が多いので全体の住民を把握するのはなかなか難しいとのことでした。

子育て支援では家庭児童相談室や養育放棄などの児童虐待相談、養育困難な相談も増加し、解決に力を入れていきます。親に家を追い出される高

ム作り、そば打体験などの農業塾（有料）が行われている。レストランでは結婚式や法事も行う。年間48万人が訪れる。年間約3億円を売り上げる。

農業は「きつい」「きたない」「危険」の3Kといわれるが、ここでは観光活動、感動活動、希望活動を実践している。本庁でも里づくり運動が展開されているが一過性のものでなく、今後も継続・定着していくためには、そこに参加する人たちが自ら和み、楽しみ、

広報調査特別委員会所管事務調査

研修報告

委員長 小山 暁



長崎県諫早干拓視察

和水町議会広報調査特別委員会では、去る8月6日と7日の2日間の日程で、佐賀県伊万里市と長崎県江迎町の1市1町で視察研修を行った。視察目的は、町議会が地域住民の信頼に依拠していくとともに、議会活動状況を積極的に公開し、住民の声が活発に反映されるよう、広報活動のより一層の充実と活性化を図

学びながら活動することが大切で、農作物（特産品）の開発・販売等も模索していく必要があると考えさせられ2日間の研究を終了した次第です。

するため、今回の先進地視察となった。出席者は、広報調査特別委員7人中、笹渕議員欠席のため委員6人と議会事務局長併せて7人で現地研修を行った。伊万里市は、佐賀県の西北部にあり、総面積254km²、人口約57,000人の波静かな伊万里湾が深く入り込んだ美しい自然に抱かれたところである。

伊万里市議会だよりは、平成14年5月から発行されており、現在8人の編集委員で活動している。現行の委員会の位置づけは、任意の組織で費用弁償等は一切なしということである。なお、伊万里市ではすでに昭和51年からケーブルテレビが導入されており、市内一円にテレビ放映が行われており、議会の模様は、生中継と録画で2回放映されるなど市民サービスの充実ぶりが伺えた。

編集作業にあたって、一般質問や委員長報告等の原稿化は、まずビデオ録画を見て、それを参考に本人が原稿をまとめる形式をとっており、一般質問の文字数は600字で委員長報告は1,200字となっている。編集上の問題点や課題として、文字数のオーバーへの対応と答弁ニュアンスの相違への対応等が指摘された。発行までのスケジュールは原則議会最終日を原稿締切り日とし、編集委員会は、2回ないし3回実施し、議会終了の翌々月の1日又は15日発

行の体制をとっている。

更に、可能なかぎり時期的な旬な話題等の特集を組むなど市民への情報伝達を心がけているのが、伊万里市議会だよりの概要である。

次、2日目に視察した長崎県江迎町は、長崎県の北部松浦半島の中央部にあって、面積32.07km²人口6,123人の町である。

江迎町議会の広報の歴史は昭和57年6月1日から発行現在に至っているが、平成19年

3月8日に議員発議によって、広報常任委員会を制定し、現在5人の編集委員で、毎議会終了後発行しているが江迎町の広報委員会では、毎年全国町村議会広報コンクールに応募しており、過去3ヶ年間の成績は、第21回コンクールで

入選、第22回が優秀賞、そして本年1月の第23回コンクールでは、連続優秀賞を獲得するなど全国でもトップクラスの実力広報紙であることがわかった。現在までの発行数は110号で毎回2,700部発行しており、広報紙の規格はA4版で平均16ページで編集

されている。江迎町議会広報の優れている点は、編集の姿勢と企画・構成内容が群を抜いており、記事の正確さと読みやすさは一流で、きちんと整理されており、更に読者である町民の紙面への参加等にも配慮され、その他広報紙発刊のスピードアップ等にも苦心の跡が伺えた。更に、表紙の写真や迫力十分な見出し等は、全国広報紙コンクール3年連続入賞の実力が表れている。

今回、佐賀県と長崎県の1市1町を視察して得た教訓は『いつも住民の目線で紙面をつくることと、更には編集主体は議員であり、住民の知る権利と議会の知らせる義務を常に意識しながら編集に当たる』ことを認識させられた有意義な視察研修となった。



長崎県江迎町役場での視察研修